

## 令和3年7月26日（月） 第6回富山県成長戦略会議 議事要旨

### <開催概要>

- 1 開催日時 令和3年7月26日（月）10：00～12：00
- 2 開催場所 富山県庁4階大会議室、オンライン
- 3 出席者（五十音順）

安宅 和人	慶應義塾大学環境情報学部教授、ヤフー株式会社CSO
齋藤 滋	富山大学長
高木 新平	株式会社ニューピース代表取締役社長
土肥 恵里奈	株式会社マスキー代表
中尾 哲雄	富山経済同友会特別顧問
中村 利江	株式会社日本 M&A センター専務CCO、 株式会社出前館エグゼクティブアドバイザー
藤井 宏一郎	マカイラ株式会社代表取締役CEO
藤野 英人	レオス・キャピタルワークス株式会社代表取締役会長兼社長
前田 大介	前田薬品工業株式会社代表取締役社長
藻谷 浩介	株式会社日本総合研究所主席研究員
吉田 守一	株式会社日本経済研究所ソリューション本部副本部長

### <議事次第>

- 1 開会
- 2 議事
  - ① 基調報告
  - ② 意見交換
- 3 閉会

## 1 開会（知事挨拶）

先月の会議は、土肥恵里奈さん、高木新平さん、そして藻谷浩介さんの基調報告を基に議論をいただいた。2月に始まって、これで5回の会議を毎月開催してきた。毎回、設定したテーマに基づく議論が中心だったが、それ以外のことについても本当に幅広く、毎回自由闊達に、そして突き抜けた議論をいただき、本当に感謝している。

今日は、中間報告案をご提示いただき、それについて議論を深めていく。そして、今後の進め方などについても意見交換をしていただければと思う。

併せて、高木新平委員からは、中間取りまとめを県民の皆様にもどのように広報していくか、作って終わりではなく、それをどうやって県民の皆さんに浸透させ、ご意見をいただき、肉づけをしていくか、その提案をいただくので、こちらもご議論いただければ。

今後は、県庁内はもとより、関係団体、県議会、県民の皆様と共に議論を深めながら、より具体的な施策を策定していく段階になる。広報などにより理解を深めていただき、皆様とワンチームとなって、実のあるものにしていきたいと思っている。

本日も自由闊達な議論をお願いしたい。

## 2-① 「中間報告」概要説明

### 【藤井委員】

- ・ これまで5回にわたって議論された様々な提言を、1つの一貫したストーリーにまとめて、なおかつ皆様のご発言を取り上げて提言書にまとめた。
- ・ 先ほど知事からも突き抜けた議論という話があった。本当に様々な議論をしたが、総花的にならずに、1つの一貫した考えというか思想、そこが突き抜けたものにできたらと考えている。
- ・ これはあくまでも中間報告取りまとめ案なので、現在も様々な意見を委員の皆様からいただいております、今後も最終稿まで意見をいただきたい。
- ・ 報告書自体は通常の報告書形式だが、パワーポイントスライドにして要点を抜粋した。
- ・ 「富山県成長戦略会議 中間報告 Wellbeing TOYAMA一案」、このウェルビーイングというのは特段決まったキャッチコピーではなくて、ウェルビーイングをかなり中心的な位置づけとして議論してきたので、あくまでもこのプレゼンテーションの題ということで。今後のコピーライティングや、広報戦略に関しては、本会議の後半の高木委員のほうで考えられると思う。
- ・ 「はじめに」として、まずは富山県がどういう県で、どういう自然環境、社会環境の中で、どのようなイノベーションを起こしたかを一度確認することで今後進むべき道が見えてくるのではないかとということで、初めに100年の歩みをまとめた。
- ・ 富山県の方はご存じだと思うが、「振り返れば、富山の歴史は、困難を克服し、住みよい郷土を築いてきた歴史であった。「ないもの」をねだらず、地域に備わった「あるもの」を活かして、郷里を豊かにしてきた歩みであった」。まずは富山藩第2藩主の前田正甫さんが、加賀藩に依存しない経済基盤をつくるために、売薬商法を武器に経済を立て直していったというイノベーションの歴史がある。
- ・ 例えばアルミ産業は富山の今の一大産業だが、これももともと鋳物を作っていた高岡の歴史から来ている。そのように、もともと持っていた伝統、そういった江戸時代やそれ以前からのイノベーションを今につなげているのが富山県の技術力の源である。
- ・ そして、「人」が豊かさをつくるということ。今回の報告書はかなり人材ということを強調しているが、富山県は非常に人材を大切にしたい県でもある。
- ・ 藩校の広徳館をつくり、馬場はる女史が今の富山大学に連なる富山高校を——当時は富山から旧制高校みたいなところに行こうとすると、新潟や石川、東京へ行くしかな

かったので、富山でも大学に行くための高校が欲しいということで、まず巨額の寄附を行い、こういった教育における投資を行ってきた県でもある。

- ・ この結果、富山県は非常に大きな豊かさを手にしている。都道府県幸福度ランキングでは東京を抜いて2位というところまで来ている。いろいろな意味で非常に豊かな県ということは我々は認めなくてはいけないと思う。
- ・ ただし、我々の中からこぼれ落ちているものがあるのではないかという認識がある。それがまさに人材で、富山県は非常に多くの事業家や科学者を輩出しながら、その方々は終生にわたり居を富山に構えることがなく、県外で活躍している。
- ・ このランキングは社長の輩出率だが、全国3位の社長の輩出率を誇りながら、実際は多くの方々が富山の外で社長になっていると。今回の委員の方々も多くがそういう方々なんじゃないかと思う。
- ・ ということで、富山県が直面する課題と新しい時代の成長戦略、こういったイノベーションと歴史、技術と人材、両方でイノベーションを重ねてきた富山県が今どのような課題に面しているかということで、その方向性を考えたい。
- ・ 方向性としては、富山県は、これまでも「ないもの」をねだらず、決して自然的、社会環境的に恵まれていたわけではなかったのに、「あるもの」全てを引き出すことによって、全国2位とも言われる富山県の豊かさ、ウェルビーイングをつくり上げてきた。それによって新しい産業を切り開く人を育て、誘致する。ウェルビーイングで豊かさを育て、豊かさを通じて人を育て、人を育てて誘致して、県内外の人々が新たな富山を作っていくというのが戦略の大きな方向性。
- ・ もう少しブレークダウンして、富山県が置かれた現状を見てみると、スライドの下部の「Today」が今、富山県民が目にしていない変化とリスク。
- ・ 新型コロナ感染症による深刻な景気後退、これはここ2年で起きていることだが、それ以前から起きているのが女性や若者の流出、これが非常に大きな危惧だと。少子高齢化の加速が特に富山県では速く、なおかつ、クリエイティブ人材のような新しい産業を引っ張っていく人材の流出というか、移住も起きていないと。ここは今後の産業を考える際にリスクになっていくのではないか。デジタル化も遅れている。
- ・ 今後はさらに大きな産業や社会変化の波が訪れる。例えば気候変動、今年も既に多くの災害が世界中で起きている。また技術革新。東海地方の自動車産業のサプライチェーンのビジネスに頼る富山の多くの製造業にとって、自動車産業が今後デジタル化、

電氣化、AI化していくことは需要減少リスクが大きい。あるいは脱炭素化の流れで、富山が強いアルミニウムなど非常に多くの電力を使うような産業も、今後、グリーンアルミニウムなど様々な電力源に切り替えていく未来社会が迫ってきている。

- ・ こういった状況に置かれて、我々が一番危機感を感じているところが、富山は若い女性が全国で2番目に出ていく県だという点。これは男性が残る率と女性が出ていく率との差ということだが、とにかく若い女性が富山から出て行って戻ってこない。男性と比較して戻ってこない。ゼロ歳から14歳は10%減っていて、極端な話、50年後に子供がいなくなってしまうというペース。
- ・ これをどうするか。今後の産業戦略というのは人材戦略だから、若い女性が出ていかないような、生き生きとしたワクワク県をどうやってつくっていくかという点にフォーカスしたいと考えている。
- ・ このスライドは、ウェルビーイングを成長戦略全体の中核とした場合、まちづくり戦略やブランディング戦略、スタートアップ支援戦略など、各領域の個別戦略が、それぞれどういう位置づけになるのかという図。ちょっとごちゃごちゃしているが、この図に入る前に、一旦ウェルビーイングというものについて説明したい。
- ・ ウェルビーイングにはいろいろ定義があるが、一番よく使われているギャラップ社のウェルビーイングは、キャリアウェルビーイング (career wellbeing)、ソーシャルウェルビーイング (social wellbeing)、ファイナンシャルウェルビーイング (financial wellbeing)、フィジカルウェルビーイング (physical wellbeing)、コミュニティウェルビーイング (community wellbeing) ということで、必ずしも身体的な健康、経済的な幸せだけではなくて、人生の時間の使い方や、人間関係、社会とのつながり方、そういったものを含めた精神的、社会的に良好な状態をウェルビーイングと言っている。これは今、政府でも非常に注目されていて、政府の令和3年の「骨太の方針」(経済財政運営と改革の基本方針2021)でも、「ウェルビーイングに関するKPIを設定する」ときちんと述べられている。
- ・ 海外でも、日本でも、国内総生産という経済指標だけで社会の成功を測るのはやめよう、今後は国内総充実あるいは国内総ウェルビーイングで考えていこうと様々に言われている。そういう意味で、我々は社会の価値観の転換点にいてもいいのではないか。
- ・ さて、ここで、先ほどの全体戦略と個別戦略の位置づけの図表に戻ってご説明する。

やはり人が流出するところではウェルビーイングも産業戦略もないので、ウェルビーイング戦略を一番ベース、図表の真ん中の下部に置いている。「①ウェルビーイング戦略（若い女性のウェルビーイング）」。

ウェルビーイング戦略に対して左上から矢印が惹かれているのが、「⑥県庁オープン化戦略」。県庁が対話と共創によって若い女性を含めた県内の多様なニーズを酌み上げ、県民のウェルビーイングを最優先課題にしていく。そのようにして、②「まちづくり戦略」や、「③ブランディング戦略」など、県庁が作る他の政策も、ウェルビーイングを中心に、きちんと足元にあるものを見つめた幸せな地域づくりを目指す体制を作る。まちづくり戦略は「都市と美しい疎空間」、地域ブランディング戦略は「幸せな暮らしのヒント」を目指す、ということで、単に一時的な観光客向けの名勝旧跡をプロモーションする、というのではなくて、これらの戦略によって関係人材や移住人材を誘致すると。そうすれば、スタートアップや新産業に来る人材も増えてくるでしょう、と。

- ・ 次に「④新産業戦略」と「⑤スタートアップ支援戦略」です。今後の新産業では、社会課題解決が非常に大きなテーマになってくる。なので、ウェルビーイング社会の創造と、新産業戦略は密接にリンクする。またスタートアップ業界は、人材とネットワークが全て。新しいウェルビーイングをベースとしたまちづくりやブランディングによって、関係人口・移住人口の増加を実現して、新産業やスタートアップの振興につなげます。そのような新しい産業が今後、またさらなるウェルビーイング戦略を打つための財政基盤へ貢献していくと。
- ・ ウェルビーイングは、何となく主観的にみんなでハッピーになろうという精神運動ではなくて、きちんとした福祉政策、教育政策、社会的インフラを打っていくことも重要です。これにはお金がかかる。なので、やはり税収をきちんと確保して、県民の富を増加させるための産業政策、経済政策がないとできない。よって、県民の幸せを確保するためのウェルビーイング政策と産業・経済政策を、「人材」を軸に連動・循環させるというのが、本報告書の基本的な考え方です。
- ・ 中間報告書案の冒頭に、県庁への役割の期待も書いている。今後、県庁の役割は、資金配分・管理から協働・支援へ移行する。20年ぐらい前にニュー・パブリック・マネジメント（NPM）と言う、民間企業の経営手法を公共部門に持ってこようという議論があったが、今はどちらかというとなュー・パブリック・ガバナンス、NPGで、市民と行政が協働しているいろいろなものをつくっていきこうという動きが非常に大きくなってい

る。これは今後のPPPやPFI、シビックテック、県庁DXの議論に非常に効いてくる。

- ・ 成長に向けたアクションの方向を、先ほどの6つのテーマで作った。
- ・ ウェルビーイングについて。これは土肥委員の提言が大きな背景になっていて、詳しくは報告書にいろいろと書いてあるが、まずウェルビーイング立県の第一歩として、女性への支援を明確化していこうと。それと子育て支援、特に子育て支援に関する情報発信の在り方の見直し。県庁のホームページは非常に分かりにくくて、使いにくい。その他、県庁自身が模範を示して管理職、役員への女性登用を拡大していこう、といったことが書いてある。
- ・ 未来経済社会を見据えた女性のウェルビーイングは、経済成長戦略とも連動する。これは先ほどから申し上げているとおり。人々が幸せになると新しい魅力的なまちができて、そうすると新しい産業が起きて、さらにそれがクラスター化していく。
- ・ ウェルビーイングをベースとしたまちづくり戦略は、アイデアが幾つかあるが、地域として「その土地ならではの」明確なビジョンを示すことが重要。個性がなくて、中心地が寂れていて、市街地に大きなモールや大型店舗があって、それを車で回遊するという、いわゆる日本の田舎のどこにでもあるまちではなくて、市街地は市街地で活性化して、市街地の外には田園地域が圧倒的に美しい疎空間として成り立つ郷土というのが本来のあるべき姿ではないかということ。
- ・ パンデミック・レディかつディザスター・レディな空間の形成、こちらは安宅委員からいろいろご提言いただいた部分。過密で、パンデミックや今後の風速何十メートルといった自然環境に耐えられるようなまちをつくらなければいけない。
- ・ と言いつつ、やはりまちというのは文化や産業の集積ですから、ハッカブル、すなわち小回りが利いて、小資本でいろいろな努力、創意工夫ができるような空間を残さなくてはならない。スマートシティも、いわゆる供給者側のロジックでつくるのではなく、先ほどの共創という言葉のように市民参加型でつくりましょうと。
- ・ PPP、PFIに関しても積極的に使っていかななくてはならないし、低廉かつメンテナンスブルなインフラの整備手法の検討、導入が必要になってくる。
- ・ 県庁の立場として、市町村との広域連携をリードすることも必要となってくると思うが、これらも全部、市民との対話、参加の中でやっていこうということ。ポートランドの都市デザインが参考にできるのではという提言や、富山県、市一体による先進的プロジェクトの検討など、様々な提言があった。

- ・ オフグリッドについては、テクノロジーとデザインを使い倒すことが必要。あらゆる場所に電力や水道を通すのは、インフラコストがあまりにもかかり過ぎるので、そのようなインフラのグリッドから切り離されたところで、自力で発電して、自力で通信できて、自力でITを使えるような地域をつくっていかなくてはならないと。
- ・ これは強靱なスマートインフラ、あるいはディザスター・レディ化のために想定すべき課題レイヤということで、安宅委員からの資料です。
- ・ 富山県のPFIは多いというが、実は富山市がほとんどで、富山県としてはあまりPFIをやっていないので、今後きちんとやっていかなくてはならない。
- ・ ブランディング戦略は、先ほど申し上げたとおり、いわゆる名勝旧跡など用意された観光資源ではなくて、「幸せへのヒント」のコンセプトで戦う。観光自体が、大型バスでみんな温泉に行って社内旅行をやるといった古い観光ではなくて、暮らすように旅をする、人々の暮らしの中に入って行ってその土地柄を体験するという新しい個人型ハイエンド旅行みたいなものがはやってきている。
- ・ 彼らに何度も富山に来たいと思わせるような関係人口へのスムーズな移動を目指して、広報と移住と観光政策を一体的に推進するブランディング室を新設しようという話。富山県の人口が100万人を切っても、関係人口1,000万人の県になればいいじゃないかと。
- ・ 新しいIT産業、新しいデザイン、コンテンツ産業、そういう知識クリエイティブ産業のような人たちが来る場所にするには、やっぱり圧倒的に価値のある空間、おしゃれなカフェがあったり、スモールビジネスが支援されていつつ、なおかつ非常に美しい独自性のある地域をつくっていかなくてはならないと。
- ・ 世界水準で圧倒的に価値のある開疎空間を日本でもつくっていききたいという話です。
- ・ 産業戦略は、スモールビジネスを含む県内企業のDX化、ITエンジニアの大量育成、実証事業の誘致、新産業創出に向けた取組の戦略的支援、プロダクト／サービスの高付加価値化・高価格化など。ここら辺はいろんなところで言い尽くされていることですが、既存産業のDX化あるいは既存産業の高付加価値化、ITを使って、県内だけにとどまらず県外に商圏を広げていく、あるいは製造業をサービス業化、サブスクリプション型にしていく、様々な新しいビジネスモデルの取組が必要になる。その際に、技術のシーズというものが産学連携ということで大学から生まれてくる。これは先ほど申し上げた様々なエネルギー分野、バイオマスやグリーンアルミ、そういった様々な

もの。最後に、教育環境の形成も必要だと。STEAM教育と並んで、新しい生きる力を養うための非認知能力を上げるための教育、両方必要だということです。

- ・ カーボンニュートラル実現のための県のコンソーシアム立ち上げをご提案いただいた。英語教育も非常に重要で、インターナショナルスクールが必要だという話もあり、IT人材が今後も不足し続けるという中村委員からのプレゼンテーションもあった。
- ・ 実証事業、これは会津若松市の例ですが、新しい未来の企業をつくるインセンティブとなっている例が日本で多々ある。例えば福岡市などはベンチャー企業創生都市ということで知られているとおり。
- ・ ベンチャー企業について。スタートアップ支援は人材とお金。例えばメンター・ネットワークをつくるとか、アクセラレーターとか、スタートアップ支援の場をつくって、IPO可能なベンチャー企業、富山から30件育成しよう、そういうことをやっぴいこうと。
- ・ 何よりも、富山県経済界と若手起業家がつながるためのプラットフォーム、場の育成が必要なんじゃないかということが提言された。
- ・ 必ずしも先端科学のベンチャー企業だけではなく、スタートアップとは言わないかもしれないが、やはり起業家的人材をつくる魅力的なまちをつくるためのスモールビジネスの立ち上げ支援も必要になってくるということも、これとカップリングする話。
- ・ 富山には新しいことをやろうとする人たちのコミュニティーが必要。このコミュニティーが今、ないじゃないかということが皆さんの間で共有されていたと思う。
- ・ ベンチャー企業は雇用の拡大に貢献する。過去20年間で一番成長しているのは新しい企業であり、20年前にコア・インデックスのトップにあったような企業はあまり成長していない。その事実到我々は富山で思いを向けるべきではないかと。
- ・ 最後に県庁オープン化戦略だが、冒頭で申し上げたとおり、今後、県庁は対話と市民参加のための場になっていく。対話というのは、市民参加とか県民参加、市町村と国との間の対話の縁の下の力持ちでの支え役にもなるし、デジタル化においても、トップダウンのデジタル化ではなくて、オープンデータやオープンガバメントによる市民参加型のDXが必要になっていくのではないかと提言されています。
- ・ 今後、成長戦略会議については、これはあくまでも今回の議論を戦略のマクロ的な方向について取りまとめたものなので、今回はどちらかというと、いろんな有識者が集まって議論したという形ですが…、藤野委員が10時40分退室ですので、このあたりで藤野委員からご意見をいただいてもよろしいでしょうか。

## 【藤野委員】

- ・ 私はこの成長戦略会議に出させていただいて、委員の方のすばらしさ、視点の高さ、本当の意味で叱咤激励しているところに本当に感動している。かつ、その結果として、今回のウェルビーイングを中心にした点に関しては全面的に賛成。
- ・ ウェルビーイングという言葉は、まだ完全に熟しているとは言えないが、逆にリスクテイクして、ウェルビーイング先進県を目指すのだと打ち出していくのは非常に意味があることかなと。もしこれが1年後で、ウェルビーイングという言葉がもっと人口に膾炙したときに使ってもあまり面白くないので、ウェルビーイング先進県を目指すタイミングとしては一番いいかと思う。
- ・ その中で、私はまちづくりとかで、いつも思っていることがある。何かというと、もちろんウェルビーイング先進県で富山県の魅力をよくするということはとても大事だが、私は富山県をよくするというだけでここに来ているつもりはあまりない。もちろん、富山県をよくすることが最終的なゴールだが、私は東京にいてすごく思うのは、東京をよくしたいと思って東京に集まっている人はいない。東京をよくしたいと思っているのではなくて、日本をよくしたいとか、世界をよくしたいと思っている人が東京に集まってくる。地域をよくしたいとどこも思う。九州をよくしたい、福岡をよくしたい、富山県をよくしたい、それから、大阪をよくしたい、関西をよくしたいというのがあるわけだが、それは当たり前で、地域の人がそう思うことは重要だが、関西をよくしたいと思って集まってくるのは関西人だけ、富山県をよくしたいと思って集まってくるのは富山県人だけ。
- ・ 私は今、朝日町でも同様な成長戦略についていろいろ話をしているが、朝日町で言っていることは何かというと、朝日町をよくするというのではなくて、朝日町を通じて富山県をよくしよう、朝日町を通じて日本をよくしようという話をしている。だから、今回、ウェルビーイング先進県で、今ここに書かれてあることを実施するというのは、ある面で見ると、富山県の課題というのは、実は石川県の課題でもあるし、山梨県の課題でもあるし、全国の課題をかなり、もちろん富山県独特の課題もあるわけだが、相当、日本の縮図みたいな面があるので、富山県がこの成長戦略で非常に活性化するということになったら、日本の様々な地域に対するモデルを出せて、日本全体をよくするきっかけになると思う。
- ・ だから、富山県を通じて実は日本を元気にするような目線であると、今度、日本中の

人がここに来て何かやってみたいなど。実証実験の場として力を発揮できる場だという雰囲気になると、様々なタレントが富山県に集まってくるのではないかと思う。でするので、目線を、富山県をよくするというだけではなく、この事業を通じて日本をよくしたいという目線まで上げていただければ。

- ・ あとは、このすばらしい実行プランについて。私はいつもベンチャー企業や投資に自分でも参加していると思うのは、これは中村委員も多分同感だと思うが、事業計画書は非常に大事です。非常に大事ですが、90%が執行です。執行できるか、やるかというところなので、もちろん委員も相当参加するが、やはり県がこれを真剣に受け止めて、やり抜く力があるかどうかということが大事です。もちろん確かなビジョンがないとできないが、ビジョンとしてはすばらしいものなので、まずやはり、この後は執行のところで本当に真剣にやるのがとても大事だと思う。今の段階が10%ぐらいで、90%はこれからの執行によるということ。
- ・ もう一つ指摘したいことは、1年後に事業計画書どおりできているベンチャー企業はほとんど皆無。やってみて分かることが必ずあって、それは非常に大きい。やってみると、このウェルビーイングの政策のずれたところにめちゃくちゃ金鉱脈があることも実は多かったり、また、自分たちが大きいと思っていたヤマが実はそうでもなかったりということがあるので、もちろんこれは見直すと思うが、1年後にかなり抜本的に、実際にやってみてどうだったのか、リアルにやっている現場の人と共に率直な見直しをする必要がある。
- ・ 1年では早いといわれるかもしれないが、1年で芽が出ないもの、全くどうしようもならないものというのは5年でも芽が出ない。逆にがっつと花開くこともあって、それに一気にリソースを割いたほうが良いということがありますから、1回1年やってみたことを、このメンバーや、実際に関わった人を入れてレビューをすることがすごく大事で、それでかなり大きなバージョンアップをしていくことが結果的に成功率を高めるのではないかと。
- ・ 逆に、一回ここで決めたことを、もうこれをやるんだということで5年間、可変的じゃない形でやると、結果的に、最初の仮説がかなり外れるので、やっぱり実際にやってみて仮説を修正することがとても大事かなと考えている。
- ・ ベンチャーに関しては、かなり自分もコミットして関わることがあれば関わりたいし、もう一つ、さっきの資料にもあったが、「後継ぎベンチャー」という言葉がある。ベン

チャーというと、完全にスタートアップのイメージが強いが、実は三、四割ぐらい後継ぎベンチャーって結構重要で、2代目、3代目の人で、テクノロジーや技術を持っている人たちで、これじゃ駄目だと思って挑戦する人たち、この人たちは富山では相当可能性があるんじゃないかと。特に脱炭素とかに関しては、単なるスタートアップより、自動車とか、アルミとか、その中の下請工場の中で長年の蓄積があった人たちが再チャレンジするときに非常に可能性が出てくるので、「跡継ぎベンチャー」という言葉も入れていただければ。

- ・ 本当にすばらしい事業計画、ビジョンをつくっていただいたので、それをどうやって真剣に実行するのが大事だと思う。

#### 【藤井委員】

- ・ 4点、大変貴重なご意見をいただいた。
- ・ 富山をよくするためではなく、日本をよくするための人々が富山に集まって、そこから日本を誘致する。そういった実証実験の場、コミュニティーをつくりたいというお話。あと、計画も大事だが90%が実行、執行だから、そのやり抜く力をみんなで持ちましょうというお話。3点目、ベンチャー企業は計画どおりに行かない。1年後に必ず検証しよう。そのずれの中に金鉱、金脈があるということ。5年やり続けるのではなくて1年ごとにちゃんと見直そうということ。
- ・ あとは、「後継ぎベンチャー」という言葉、こちらは報告書に追加させていただきたい。三、四割は跡継ぎベンチャー、特に富山では、技術力のあるベンチャーの中にそういった芽があると考えていらっしゃるということで、大変貴重なご意見をいただいた。
- ・ ここで、もう一度資料に戻って、形式的なところを補足したい。
- ・ この報告はあくまでも今回の議論を戦略のマクロ的な方向について取りまとめたもので、あくまでも有識者側の知事に対する提言。県としての正式な戦略は、次のステップとして、ちゃんと県庁の現場と企業の現場、大学の現場の方々と一緒に作らなくてはいけない。よって、ここで取り上げたようなウェルビーイングから県庁オープン化までの専門領域ごとにワーキンググループを作ることを提案したい。
- ・ 最後に1点、報告書の構成で、委員の皆さんに事前に送らせていただいたバージョンと少し変わった個所があるので、ご説明したい。
- ・ 当初は、成長戦略なので、産業が抱えている問題から入って産業戦略を書いて、産業戦略のためには人が必要で、いい人が来るために、いいまちをつくってウェルビー

ングな県にしないといけないから、そういうところをちゃんとブランディングするんだと、①産業戦略、②まちづくり戦略、③人づくり戦略、④ブランディング戦略、⑤ウェルビーイング戦略、それを全部支える⑥オープン県庁という順序立てにしていた。しかしその後、委員からウェルビーイングを中心に持ってくるべきという強いご意見があり、順番を変更した。

- ・ 最新版はウェルビーイングを一番最初に置いて、ウェルビーイング政策を中心とした人材集積こそが成長のスタートであると。なおかつ、経済成長のための人材誘致のためにウェルビーイングをやる、という考え方はちょっと偏っているので、トーンを修正した。そもそもウェルビーイングの概念には、成長や幸せということの考え方自体が今、大きな価値観の転換期にあるという背景がある。なので、お金のためにウェルビーイングではなくて、全体的なウェルビーイングの中に、その一部分として産業戦略も入っているという書き方にした。
- ・ したがって、①ウェルビーイングの後に②まちづくりが来て、そういったウェルビーイングなまちをブランディングすることによって、人々が来て、それで初めて③産業戦略の話ができるという構成になっている。
- ・ もう一つ、新産業戦略とスタートアップ戦略がもともとは一緒になっていた。しかし、スタートアップ戦略は領域的に特殊な部分がある。急成長させるスタートアップ企業をコミュニティーを作って支援することに特化した議論の場が1つあったほうがいい、という意見をかなり多くの委員の方々からいただいた。そこで、新産業戦略とスタートアップ支援戦略は別の章立てにして、ワーキンググループも別にすることを提案している。
- ・ では、フリーディスカッションで皆様のご意見をいただければ。

#### 【安宅委員】

- ・ 率直なところ、ウルトラ盛りだくさんで、何か具30種類弁当のような感じなので、どこが主食なのかが分かるといいと思ったのが1つ。大分めり張りをつけようとされていると思うが、もっとつけてもいい気がする。僕は戦略を立てるのが本職という立場なので、結局、目指す姿がどういう状況で、何がギャップで、リソース配分をどう見直すかということがしゃきつとなっていればいいと思う。
- ・ 目指す姿をウェルビーイングを中心にまとめているところが、クリアだが普通に聞くと、富山はもうできちゃったまちで、日本でほとんどトップレベルだから、もうやる

ことがないように聞こえる。だから、『住みやすさ』などの指標で日本の半ば頂点に立ってしまった富山としては、世界水準の頂点に立つという強い意思表示が要るのではないか。結局、トップの水準が国の水準なわけで、もう一段上のことを我々は目指すみたいな話ががつんとあってもいい。そのように高い目線を設定しないとしゃきっとしないというか。やることがないと聞こえないようにしたほうがいい。教育レベルも高い、ヘルスケアも安全で、自然もあってと言い出すと、やることがなくなるので、そこが大事。

- ・ という意味で考えて、初めてギャップというか課題の話が出てきて、僕らの目線が高いので、いろいろやることがありますよと。単なるスマートシティの話でもなくて、ディザスター・レディ (disaster-ready)、パンデミック・レディ (pandemic-ready) のように、本当にSX (sustainability transformation)、サステナビリティの視点で、明らかに未来の空間をつくるということであるとか。富山だけじゃなくて全日本がですけど、全ての地方というのは都市からの金の再配分で動いているので、地方交付税という形の。その問題にとどめを刺す最初のまちであってほしいと思いますし。サイバー×リアル的な世界の変容ができていない、実は東京も含めて全部そうだが、そこも変わっていくんだという話をもうちょっと課題意識として入れるなど、一番高い、国も出さないような課題意識を富山県が出すということに素敵さがある気がする。それによってこのビジョンがしゃきっとすると思う。
- ・ その視点で見たときに、リソース配分をどう見直すかというのがもう一個戦略の要のはずで、あえて書いていないのかもしれないが、ストラテジーは結局、傾斜配分というところがあるので、そこはもう少しあってもいい。
- ・ 傾斜配分というのは言い方が悪ければ、例えば、富山にいたら元気でピンピンコロリじゃないけど、ずっと元気で生きていられる。ヘルスケアというのは普通の社会ではお荷物扱いされていて、全日本でもそうですし、全ての地方で多分出費の1位はヘルスケア及び年金だが、なぜかこの土地だけは社会保険料が余ってキャッシュが生まれるようになるとか、行動変革を引き起こしていくんだという話がうまく入っていったらいい。その辺は次のフェーズの議論なのかもしれないが、やはり経済的に回るのが大事なので、そこはあるかなと。
- ・ 世界的にほとんどの経済活動が、宇沢弘文先生の言うところの社会的共通資本的な視点で見たときに、外部不経済性が大き過ぎる。極端な事例では、日本の主力産業の一

つの自動車産業は、クルマが引き起こす環境問題の大部分がクルマを使っている人以外が支払うモデルになっていて、非常に問題が大きい。だから今、炭素税の議論があるわけだが、そこをエコノミストが見直していくんだみたいな話がうまくあると、もうちょっとリアリティーな底がさらに上がって、サイエンス的だなと思う。

- ・ 最後は、時間軸的な議論をもうちょっとしゃきっと入れちゃったほうが、自分たちの首を絞めますけど、どこから着手して、どのぐらいの時間軸で我々がこう、もう何と  
いうか、日本の中の地域としてはほぼ行き着くところまで行ってしまった富山を世界的にヤバくするんだということのハードル設定を、このような着手から、ここから始めてこうやるんだというところをうまく入れたらいいんじゃないかなと思う。
- ・ まとめると、我々はこの新田知事体制で目指す姿のハードルを上げた。だから、普通なら課題だと思わないことを未来に向けていっぱい課題だと考えていて、その視点でお金がちゃんと回るようにしていったり、こういうふうに着手していくみたいなのがあるとすごく元気になるなと思う。

#### 【藤井委員】

- ・ ウルトラ盛りだくさん30種類弁当というご意見、私も取りまとめながら、安宅さんのすごくエッジなものが、だんだん何でもかんでもになっていくというのは問題意識を持っていた。さらに、世界水準を目指すという、エッジを立てるといふか目線を高くするという方向でそこを乗り越えられればなど。
- ・ 時間軸に関しては、先ほどの藤野委員からもご指摘があったので、今後のワーキンググループなどで実際にどうするかを議論されると思う。
- ・ サイバー都市みたいなものの真剣な、国もまだ出していないような設計図をちゃんとつくるという点は、安宅委員から頂いたスライドにあったような天災ディザスター・レディ化のために想定すべき課題レイヤ、人命対応、OS的なインフラ機能、基本コアシステム、ルール作り・ガバナンス、こういったことを真剣に今後考えていかなくてはいけないので、まちづくりのワーキンググループとちゃんと話していきたい。
- ・ ぜひ安宅委員の期待に応えられるような目線の高い世界水準のものにしていきたい。

#### 【安宅委員】

- ・ デジタルについて1点だけ加えると、高木委員の関係人口1,000万の話とつながっていて、結局、ハイブリッドライフに適した空間であることが結構重要。同じ話だと思うんです。だから、別に常時いる人だけが住民ではないので、関わって愛している人、

それが世界中から、もちろんアジアの人もそうですし、アメリカやヨーロッパの人も、他の国でも、僕は全部ウェルカム。オリンピックを見ればいい。あれですよ。みんなが集う、そんな感じでやるためにはハイブリッド化の話だなと思う。

【藤井委員】

- ・ エストニアが世界中の人々にデジタル市民権を発行している、ああいう感じですよ。

【齋藤委員】

- ・ 私のほうは現実的な形でお話をしたい。冒頭、藤井委員から、富山にあるもの、それから、本来の豊かさを利用して富山が発展してきたと言われた。もう一つ、若い女性がどんどん流出しているということもあった。このウェルビーイングということからすると、フィジカルウェルビーイングでは、本県は製薬業界がトップで7,500億円くらい。2番目が金属で、これは4,000億くらい。この富山が既に持っているメリットをいかに生かすかということが非常に重要だと思っている。
- ・ 日医工の製造工程で不正があり、300年間培ってきた富山の製薬業界は、安心・安全で非常に優良という社会的な信頼がなくなってきたという、製薬業界にとっても大きな節目でもある。だから、現実的なことを言うと、これは県を挙げてきっちり、もう一度、富山県の製薬業界の信頼を勝ち取る。それから、従来のジェネリック単独では利ざやがどんどん減ってくるので、やはりもう一度全県を挙げたような形、産学官挙げた形での創薬もきっちり進めていくべきではないか。
- ・ 報告書に、既存の県内企業の成長と強化の部分で創薬もちらっと書いてあるが、この部分が非常に弱い。毎月、「くすりのシリコンバレーTOYAMA」の事業で森事業責任者ともウェブ会議しているが、森事業責任者から、創薬の部門をもうちょっと入れてほしいと依頼された。ですから、富山県が持っている今の製薬業界の信頼をもう一度勝ち取る。さらに、先ほど藤野さんから後継ぎベンチャーの話があったが、同じものを作ってもどんどん薬価が下がってしまうので、ほかにはない付加価値をつくるということも含めた形で、従来の製薬業界がきっちりとしたものをつくるだけでなく、ベンチャー的なことまでやるという形でトライしていただきたい。
- ・ もう一つ、2番目の産業はアルミだが、これは今、岐路に立っている。アルミ生産は大量の電力を必要とすることからCO<sub>2</sub>をばらまくので、カーボンニュートラルと逆行するのだが、再生エネルギーを使ったアルミ、もしくはグリーンアルミと言って再生したアルミを使うことによって、この問題が一挙に解決する。

- ・ 時代はカーボンニュートラルに向けて、これから5年以内に急速にガソリン車から電気自動車に移行する中で、車体の軽量化のため、素材としてアルミがグローバルスタンダードになれば、世界中の車がアルミを使うようになる。しかしながら、やり方を間違ふとほかの材料が使われるようになってしまう。今、県内の事業者数で一番多いのは金属製品で、アルミ関係の企業は500近く、従業員数は1万9千人。この方たちの職がなくなると、それこそウェルビーイングじゃなくなって、どんどん若者が流出する。だから、もうちょっと現実的な部分と将来的な夢を少し切り離して、現実7割、夢3割ぐらいでうまく切り分けて、県の政策を取っていただければ。
- ・ 超現実的で面白くない話だが、非常に重要な課題だと思っているので、あえて発言させていただいた。
- ・ それから、クリーンエネルギー、いわゆるカーボンニュートラルということで、富山大学は、地熱発電に取り組んでいる。県の協力なしに立山の開発はできないので、そういうことも含めた、産学官を含めた形で進めさせていただきたい。
- ・ アルミについては、富山大学の先進軽金属材料国際研究機構が、文部科学省の卓越した研究機関の4つのうちの一つに選ばれた。これは熊本大学と富山大学の連携で、こういった形で、日本のライトメタル、軽金属の中心的な研究施設として富山大学が認められつつあるので、そういったことも含めて、ぜひとも産業界と県とも連携して進めていきたい。

#### 【藤井委員】

- ・ 産学連携については、おっしゃったような形でしっかり進めていきたい。
- ・ 創薬に関しては若干記述が薄かった。報告書に、「創薬やIoTなど、すでにコンソーシアム形成が進む領域もあるが」と3行ほど書いてあるが、グリーンアルミと同じようにもう少し特出しして書いていければと思う。
- ・ 先ほど現実7割、夢3割というお話があったが、まさに県内の企業の後継ぎベンチャーみたいなものを含めてかもしれないが、今やらなくてはいけない目の前の課題、DXを含めた産業課題をきちんとやろうということで、ワーキンググループも新産業戦略とスタートアップ支援戦略という、ある意味、夢の部分と現実の部分で分けた。いずれにせよ、おっしゃったところはきちんとやっていきたい。

#### 【藻谷委員】

- ・ 私は、この絞り方その他に異存がないというか、特に最後の順序のひっくり返しは非

常にいい。変えたほうが流れると思う。

- ・ これをコミュニケーションする戦略が重要で、そのコミュニケーションのためのブックみたいなものを戦略に書いておく必要がある。今の創薬もそうだが、戦略というのはつまり絞るということなので、戦略に書かれないものが出てくる。
- ・ 総合計画では、書かれていないことはやらないということだから、書いていないとやらないと思われてしまう。これは戦略なので、総合計画とは違って、書かれていないことはやらないわけではないということを根本的に理解しないとハレーションが出るというか、これはそもそも違うものだから全部書かないということを県の方も工夫して位置づけを考えないといけない。県の部局も、書いてないから要らないとか、後回しという話では全くなくて、ここを伸ばすんだということでやっているんだとコミュニケーションしなきゃいけない。それが日本では、ものすごく難しいことで、いけている企業だと当たり前のことだが、いけてない企業及び日本の一般では全然それが常識になっていないために、一々説明しなきゃいけないという問題がある。
- ・ だから、外枠を聞かれたら答えられるようにしておいたほうがいい。この戦略は県全体の中でこういう位置づけで、伸びるところを伸ばす戦略だと。それとは別に、低いところを上げる戦略もまた別にあってもいいわけだが、取りあえずこの戦略は、世界の中でも先端的に豊かな富山が世界を引っ張っていくという、最初に藤野さんや安宅さんがおっしゃったそういう延長でやるんだと。平均より上でいいんだという考え方ではないところを狙うので、その外枠が分かるように、説明するなり、書くなりすることが必要だと思う。
- ・ もう一つだけ言うと、何で今までのままじゃいけないのか。世間よりちょっといいし、世界のトップだし、暮らしやすいし、何がいけない。いや、才能のある人が出ていって帰ってきません。いいやん、他所で貢献すればと。スケボーの堀米が東京にいなくても、ロサンゼルスで活躍したほうがもうかるなら、ロサンゼルスに行って金メダルだけ取ってくればいいみたいな、そういう人ですよ。あれを見て、何で江東区が聖地になれないのかと思わない人たちがほとんどですよ。
- ・ そうじゃなくて、それだけの人材がなぜロサンゼルスに移住しなきゃいけないのか、おかしいよねというところに踏み込むことが必要だと。それだけの力がある地域なんだから、程々でいいとやっているのは残念だと。
- ・ 加えて、今までの路線で発展しているかという、人口はすごい勢いで減っていく。

特に女の人は出ていっている。だから、この路線は実は豊かなようで行き詰まっていると、僕が講演するのなら危機感を盛り上げるが、この計画にそれを書くのがふさわしいかどうか分からないが、非常によくできているはずの県なんだけど、実はすごい勢いで人が減っている。特に女性が出ていっているというのはやっぱりおかしいでしょうって。これだけいい県なのになぜかということが必要性として理解されることが重要なのではないか。

- ・ 外枠はこうで、なぜあえて絞ってこれを伸ばすのか。今まですごくよかったけど、そのこと自体に残念な限界があるよと、計画に書くかどうかは別として、みんなが伝えられるようにしておかないと、あれも書いていない、これも書いていない、けしからんと言っているいろいろと邪魔される、そこが非常に心配。

#### 【藤井委員】

- ・ 総合計画とは違う位置づけというのは、今後のコミュニケーションの中でもきちんと書いたが、もう一回事務局と相談して、具体的にどういうワーキングにするかというのはちゃんとやりたい。
- ・ 私も公務員時代は一生懸命、内閣官房に自分の担当の政策の短冊が入っていないと言っていて、それを押し込むこととかたくさんやったので、よく分かる気がする。

#### 【藻谷委員】

- ・ 皆さんに例えとしてぜひ理解してほしいが、江東区がこの機会に、堀米がロサンゼルスに豪邸を建てるのもいいが、こっちにちよくちよく帰ってきてやってもらいたいから、世界の聖地を目指すぞと仮に江東区が言ったときに、突然、有明テニスの森を建て直してほしいとか、シルバースポーツもすごく大事だとか、わーっと出てきてスケボーができなくなるという、それを繰り返す。普通の行政はそうなので、そうならないことが実は重要。しかもスケボーと違って、ここに書いてあることはずっと富山の課題なので、よろしくという、そのあたりを書くことによって、日本の従来の行政が分かっているできなかったところを一步踏み越える。民間出身、経営者知事ならではの一步が踏み出せると思う。

#### 【藤井委員】

- ・ 開かれた県庁の章にもしかしたらそれも一言書いてもいいかもしれない。位置づけ以外の県庁のマインドセットとして、どちらかというベンチャー企業マインドな県庁をつくらうということなのかもしれないが。

【吉田副座長】

- ・ 私自身、この5か月間、大変多くの学びがあった。
- ・ 世界水準を目指すといったお話もあったが、どんどんブラッシュアップされていくことで、よい意味で常識破りの差別化された成長戦略ができると思っている。
- ・ その上で、順不同で3つ申しあげたい。
- ・ 1つ目は、昨日、県と地域活性化センターによるフォーラムがあり、コロナ禍で完全オンラインとなったが、県の成長戦略室の皆様が準備の段階から大変頑張っていたことが印象的だった。改めて県庁には優秀な人材が集まっているなと思ったが、今回の戦略を実践していくには、関わる人の考え方と熱意と能力の3つの要素が掛け算してあるかなと思っていて、考え方は中間報告で示されたわけだから、あとは職員の能力をさらに高めて、熱意を持って生き生きとチャレンジできるような戦略に合った組織づくりが大切である。
- ・ この点、県庁のオープン化戦略が全ての起点だと思う。書かれている人事の360度評価だとか、官民交流だとか、複線型キャリアの形成だとか、市民参加型の県庁、DX、数多くあって、多分、県庁職員の方も大変だと思うが、ここはしっかりと取り組んで県庁改革を着実に進めていただきたい。
- ・ 続いて官民連携のところ、私も思い入れがあるわけだが、昨日のフォーラムでは、エリア・イノベーション・アライアンスの木下さんからもいろいろと提言をいただいたので、紹介させていただくとともに、私も同感なので、ぜひこういった方向性を重視していきたい。
- ・ 単なる官民連携では不十分で、財政改善と併せて住民サービスの向上の両立、ひいては地域経済循環の改善に資する稼げる官民連携を目指そうということ。また、県単独の人材投資だけではなく、市町村横断で教育投資を図っていく。県と市町村と民間が切磋琢磨していくような環境づくり。あと、県主導でフラッグシップとなるようなプロジェクトのケースを小さくてもいいからまず1つつくるといったご提案があったので、ぜひ盛り込んでほしい。今後のワーキンググループで議論を深めるのもいいので、何かしらその方向感を大事にしてもらいたい。
- ・ 3つ目が、高付加価値な観光のところ、ハイエンド観光客というところを今後どうしていくかということだが、私自身は銀行員で専門家ではないが、ハイエンドの観光客の満足を得るといえるのはそんな簡単なことではなくて、高度な専門性や能力、感性が

必要になってくるので、戦略的に進めるということであれば、伸びる方を伸ばしていくといったところ、そこを実践していかなければいけない。

- ・ この点、例えば、2019年に設立された富山県西部観光社「水と匠」さんは、県西部独自の魅力的な地域資源に着目されて、土徳とか、民芸とか、富山の豊かな生活に着目したコンテンツづくりを頑張っている。
- ・ 前田さんも伸びる方を伸ばしていく方のお一人かなと思っていて、えこひいきというのは言葉として適切かというのはあるが、そういった民間事業者が力を発揮できるように官民連携事業に取り組んでいただきたい。

#### 【藤井委員】

- ・ 3点あった。まずは、県庁の組織づくり。
- ・ あと、官民連携で、県と市の横断、県としてフラッグシップケースをつくっていきたいというご提言。木下様からのご提案もあったということなので、これもどこかでいろいろ伺えれば。
- ・ 最後に高付加価値な観光について、先ほどはさらっと流した部分だが、報告書で「ハイエンド観光」「ラグジュアリー観光」という言葉を使っていて、ここの位置づけをちゃんと考えないといけないと思ったところ。暮らしの中に溶け込んだ観光というのは、1泊数十万使うようなラグジュアリー観光とはちょっとタイプが違うので、その2つが両論併記になってしまっている点、どちらもありだとは思いますが、きちんとDMOにおける対応とかでは整理をしていきたいと考えている。

#### 【中村委員】

- ・ 感じたことが1点、提言が2点ある。
- ・ 1つは、先週だったか、日経新聞に、多様な働き方が可能な条件がそろう都市ということで、何と高岡市が3位になっていて、とても驚いた。何で3位になったのかなと思うと、その指針が、首位が小松市で、学童を含む保育環境が充実しているとか、福祉施設が充実しているとか、住宅が広いとか、通勤の場所から近いと。一般的に見て、先ほど安宅さんがおっしゃったように、富山県全体、過ごしやすいは過ごしやすい。非常にハイレベルな都市だと思うが、ただ、割とハードに寄っている。ハード面はすごくよくて、過ごしやすいし、住環境も整っていて、リモートワークがしやすくて、すごく多様化と言われてはいるが、多分、当の高岡に住んでいらっしゃる女性とかは、「えっ」と一番びっくりしたと思う。高岡は全然多様化じゃないと思っていたり、市

の財政もすごく赤字だったり、全然多様化じゃないのに何言ってんのというのが多分多くの人の感想だと思う。

- ・ 提言としては、先ほど女性が流出しないようにとか、女性の管理職を増やそうとか、あとベンチャー企業を育てましょうとかあったが、じゃ、何でならなかったのかというのを今考える必要があると思っていて、多分こういうことをやろうと決めると、女性の管理職になる人を選んでサポートしましょうというようなプログラムが走っていきがちだが、私は、2位の流出を促してきたのは女性自身だけではなくて、その周りの人たちの課題もすごく多いと思っている。例えば、既存の男性社会を推進してきた今、いわゆる功労者と言われる偉いおじいさんたち、おじさんたちが、そうだよ、やっぱり女性もちゃんと推進しないとイケないよねと思ってくれないと、なかなか当事者の女性が成長できないと思うので、ターゲットとする当事者の取組だけではなくて、その相対となる方々の意識改革とか取組は必ず必要になってきて、その両面がないと、ベンチャー企業もそうですよね、ベンチャー企業の起業家本人を育成するというだけではなくて、これまで既に富山の産業を支えてきていた成功した企業者というのはたくさんいらっしゃると思うので、そういう方々に応援していただけるような環境をつくるのがすごく重要で、その両面をやる必要がある。
- ・ 最後に1点提案で、藤野さんも言われたが、今回の中間報告は、ビジョンがすごくできていると思う。企業の経営も同じだが、ビジョンはまずすごく大事だが、そのビジョンをかなえる執行力がないと、なかなか計画はうまくいかない。多分これから後半の議論では、この執行力をどう実現するかという話になっていくと思うが、やはり一番大事なのは、各ミッションのワーキンググループの責任者を決めて、事業計画の目標、どこまで、いつまで何をやるかというのを決めていくことがすごく重要だと思う。多分1年では終わらない案件もすごく多いと思うので、先ほど藤野さんは1年ごとにチェックとおっしゃったが、多分、普通の企業だと3か月とか半年ぐらいに、方向がぶれていないかとか、戦術を変えたほうがいいんじゃないかということを見ているので、ワーキンググループの実行責任者とそれをチェックされる方、これは多分、新田知事を中心に県庁の方がなられると思うんですけど、グループが本当にちゃんと責任を持って推進しているか、また、そのグループの方向性がちゃんと言ったことに対して向かっているかというチェック機能、この両面をしっかりと設定されるのが非常に大事。

- ・ もう一つ、安宅さんと同意見で、盛りだくさん過ぎて、ワーキンググループ全部は成り立たないような気がする。ですから、提言いただいたビジョンの中で、実際のワーキンググループは何に対してどのチームでやっていくのか、顔が見える責任者を明確にして、事業計画を立てて、どんな成果を求めていくのか。例えば、女性流出ワースト2位だったのを3年後にはベストテンに入るようにするとか、具体的な目標設定をしていかないとなかなか進んでいかないと思うし、目標設定していくことが、戦術が間違っていたとしても新しい戦術を生み出すことになると思うので、そのあたり、ワーキンググループは、私の個人的な感覚では5つか6つに絞って、それぞれに具体的な数値目標を出してやっていただくほうが成功するのではないかと。

#### 【藤井委員】

- ・ 高岡市が3位というニュースを私も見てびっくりして、これはすごいと思って、かなりエキサイトしてしまいましたが、ハードで過ごしやすいけど、ソフトがまだまだというお話でした。ソフトの中には、女性の流出の問題に関して、対象となる女性だけではなくて、男性が変わらなくてはいけないといった提言をいただいた。しっかり報告書に書き込んでいきたい。
- ・ 執行力とタイムライン、こちらは藤野委員、安宅委員からもご提言があったが、1年と言わず3か月、半年ぐらいのところ、これは事務局がかなり大変だとは思いますが、きちんとしたそういった機能をつくるということを提言したい。
- ・ あと、盛りだくさん過ぎるという点。ここは私もどう絞り込んでいいのか分からないが、おっしゃるとおりだと思う。特に、各ワーキンググループに顔が見える責任者があって、その人がちゃんとKPI、数値目標を決めてやるというのはすごく重要だと思った。そうでないと、各ワーキンググループがボトムアップに上がってきたものを総花的に書いて、総花的なワーキンググループが8つできてしまうみたいな、総花ツリーがどんどん下方向に花開いていくということになりかねないので、そうならないようにきちんとやりたい。

#### 【前田委員】

- ・ 「ウェルビーイング」という言葉が出たことはすごくいいと思う。一方で、この成長戦略会議自体が県民の皆さんの注目をすごく浴びていると日々感じている。というのは、電話が直接かかってくる。岩瀬の方とか、氷見の方とか、いろんな方からかかってくるが、共通しているのは「結局、今回もどこに着地するんだろうね、前田君」と。

そこにちゃんと今、着々と5回、6回と向かっているんだろうかというお電話をいただく。今まで県のいろんな会議に出たが、こういう電話は初めてで、それぐらい注目されているということで、どこに着手するのかすごく分かりやすい戦略というのが必要なのかなと思う。

- ・ 一方、先ほど安宅さんがおっしゃったとおり、これだけ日本でトップスリーの住みやすい県であれば、あえて世界水準という中で、時間的、そして精神的に余裕のある富山のリブランド戦略、これはその先の世界を目指すということで、世界水準の県を目指すというのはすごく賛成。僕の好きな稲盛さんの言葉を借りると、富山県として目指す山を変えるということかと思う。そのときに、絞るとするのは非常に難しいが、富山県があえてやるべきことを絞ったというのは非常に画期的なこと。
- ・ その中で提言だが、25歳から39歳までの女性流出率が富山県は日本のワーストツーで、この25歳から39歳が若い女性の定義になっていたと思う。いわゆる子育て世代とか第二新卒世代とか、そこの流出を抑制するという、非常にディフェンシブというか守りの姿勢だが、そうではなくて、こういった人たちをいかに流入増させるかというすごく攻めの姿勢も、もう少し戦略の中に具体的に入れていくといいのでは。
- ・ ただし、日本全体で人口が減っているので、高木新平さんの関係人口1,000万人というのは非常に日本にとっていいことだと思っている。この関係人口というのは人材をシェアするということなので。ただし、富山県の関係人口が1,000万人の中に若い女性も入っているという形の方向性がいいと思う。
- ・ 日本や世界をよくしたい人が東京に集まっているという藤野委員の言葉は非常に鮮烈で強烈で、日本や世界をよくしたいという人が富山に関係人口も含めて集まっているところを一点突破していくと。そのためには、実証実験やチャレンジ、失敗も含めてやりやすい県だということがまさしくウェルビーイングじゃないかと思う。
- ・ ワーキンググループの話、そこは多分官民一体となってやるべきだと思うが、そうであれば、世界を知っている人、世界で戦ったことがある人、今現在、世界と戦っている人が入らないと、世界水準とは何かを知らない人が幾らチームに入っても視座は上がらないと思うので、そういうチームをぜひつくっていただきたい。

#### 【藤井委員】

- ・ 県民の皆様から非常に関心が高く、しかもどこに着地させるのかという、非常にこれまた難しいご指摘をいただいているということ、それだけご関心が高いということだ

った。我々が着地させようとしている新しい山、これはウェルビーイングを重視した人材戦略という新しい山だと思うが、さらに、県民の皆様がご納得いただけるような着地点、クリアなゴールの見える数値のある着地点を目指していきたい。

- ・ 25歳から39歳の女性をどう流入させるかという点。報告書では流出させないというところに重点があって、流入させる戦略というのがちょっと弱かったところは否めない。まさに関係人口といった手段を使って、様々な方が富山に関われるようにしたい。
- ・ 世界を知らないと世界最高水準のものは書けない、まさにおっしゃるとおり。今後、ワーキンググループの人選において、事務局とも相談しながら、世界を知る人材が入るようにしたい。

**【中尾座長】**

- ・ 今日のご意見を聞いていると、もうちょっと直さないといけないという、そんなことがあってもいいのですか。事務局がまた大変ですが。

**【藤井委員】**

- ・ そのつもりです。各委員にご指摘いただいた点は、すべて改めて加筆修正します。

**【中尾座長】**

- ・ 分かりました。安宅さん、どうぞ。

**【安宅委員】**

- ・ 3つあって、1つは、流出防止というのはやめたほうがいい。本当に大事なのは出入りの活性化であって、おりに入れられている感があるから脱出しちゃう。前に僕が言った話だが、富山にいと、屏風のような立山連峰を見て育つわけですね。立派だけど、あれがヒマラヤみたいで、きついわけですよ。だから、外に行きたくなる。
- ・ 僕はそれはそれでいいと思う。才能輩出県というのは才能が外に出ていく県で、それは実は素晴らしいこと。だって、幾ら出しても次から次へと生み出せるというのは、どれだけそのプールがすごいかということであって、富山という土壌のすばらしさを示しているの、同じぐらい大量にやってくればいいだけの話。世界的に人口は調整局面で、あと100年か200年かけて先進国の人口は数分の1になることはほぼ確定した未来で、そうであるべきだし、そうしないと多分人類は滅びるので、人口が減ること自体は問題ないんだけど、N倍化エコノミーからの脱出をどう図るかというのが全世界的に問われていて、我々はこの答えを出すんだという気持ちがやっぱり大事なんだと思う。

- ・ その視点で言うと、先ほどお話があったとおり、富山は製薬とか結構いいんですよね。N倍化エコノミーとは全く違うものであって、付加価値の塊なので、薬九層倍じゃないけれども、本当にすさまじいわけですよ。
- ・ なので、そういうのではないタイプの高度な付加価値なり企業価値を生み出すようなことを我々はやっていって、そういうものをやりたい面白い人がどんどんやってくるという話にしていかないと行き詰まるし、正しくないんじゃないかという。基本的には多くの委員がおっしゃっていることと同じだが、これが1個目。
- ・ 2つ目は、産業の話、今もちょっと触れたが、単純な量的エコノミーからの脱出が今問われているので、そこをどうやるのかということをお我々はがんがんやるんだと。もう世界に先駆けてやると。その実験空間にするんだと決意することが実は既存の産業の活性化と直結していて、その視点であらゆる作業を刷新していくんだという話だと思うので、そこはもうちょっと強めに言ってもいいかなと。
- ・ 最後は空間の美観の話で、僕はプレゼンでどこまでちゃんと言ったか覚えていないが、一瞬、画面共有すると、例えば多くの疎空間ってこうなっている。これは富山の写真じゃないけど、森だって、日本って土地の7割ぐらい森ですけど、そのうちの4割ぐらいが人工林で、そのうちの97%が針葉樹林で、その7割はスギかヒノキしか生えていない。このように、極端な単層林になっていたりします。また林業から生まれる経済価値は実は森の生み出す経済価値の1%しかなくて、二酸化炭素まで入れても2%ぐらいしかない。森の生み出す価値のほとんどは実は空間保持価値なんですよ。
- ・ 東日本大震災で巨大な津波が来た気仙沼もすさまじくて、これはCGじゃなくて本当にこういう防波堤、壁を造っています。他にも山林のとても美しいところに行っても、こういうふうによたらめったら電線が立ったり、擁壁だらけになっていたり、荒れ果てたこういう固い道とかが多く存在します。片や、野生動物たちというのは固い土木のところでは育たないというのは、科学的にはほとんどコンセンサスであって、軟らかい土木を開発していかなくちゃいけない。
- ・ 富山が一つ開発しなくちゃいけないのは美しい美観。自然はすばらしい。でも、そこを調和したような土木とか美しい空間というのは生み出せていない。これは日本中でできていなくて、国家的問題。これまでの土木をやり過ぎるとこの間の熱海みたいなことが起きて、人間を守るための土木が人間を滅ぼす。だから、何かうまい方法を考え出さなくてはダメで、我々も成長戦略の一部に、圧倒的に美観であり、自然と調和

する空間をつくるんだという点は強めに入れてもいい気がするし、日本の場合、実は誰もあまりできていない。

- ・ 富山の街なかの美観が今ひとつである一番大きい理由はおそらく空爆による被害が大き過ぎたせいです。日本国は富山も含めて急いで直すために電気のグリッド的なインフラ配備はほとんどを電柱でおこなった。調べると、イギリスとか120年ぐらい前に、ガスを電気に変えるときに全部埋めろというすさまじい法律をつくっちゃったので、ロンドンなんか、一回も電柱は立っていない。日本の場合は戦後復興のために急いでしまったが、これは直さなきゃいけない。少なくとも疎空間だけでも直すとか、電線を下ろしておいたほうが、ここから風速70メートル以上の時代になるわけだから、その意味でも強いし、そもそも富山は地震がほとんどないし、いろんな意味で未来空間をつくりやすいと思う。その辺の話は、結構ネオ土木的にも未来があると思うので、ちょっと加えてはどうかなど。

#### 【藤井委員】

- ・ 流出防止はやめたほうが良いという意見、ここは書き直したい。出入りの活性化が重要ということ。
- ・ 単純な量的エコノミーからの脱出が問われている新しい経済の在り方、新しい価値観というところをきちんと踏まえた戦略にできれば。
- ・ 最後に、自然と調和した土木による圧倒的な美観、電線のない空間、少なくとも開疎な部分ではそこをやる、これもきちんと書き込んでいきたいと思う。

#### 【土肥委員】

- ・ ウェルビーイングについて、すごく興味というか関心が高いこともあって、今の発表は全体的にすごくワクワクする。一方で、これからこれをどうやって形にして、どうやっている人々に広めていくかということになると思うが、この「ウェルビーイング」という言葉自体が横文字で、また何か新しい横文字を言い出したなという印象がもしかしたらすごく強く伝わるのではないかな。
- ・ 私もふだん、そこまでいろいろ勉強熱心なほうではないが、まずは、なかなか話が難しく、もうちょっと分かりやすいメッセージとして、私の場合はどうしても子育て世代とか、次の未来を担う子供たちというところへの思いが強いので、何でウェルビーイングを目指すのかということの先みたいところがもう少し強いメッセージとして欲しいなと思ったりもした。

- ・ 女性支援をたくさん入れていただけてうれしいが、私の中では全て、今、安宅さんの話にあった美しい空間とかも、なぜそれをつくりたいかという、その後住み続ける人たちのためというのが私の中では思いとして強くある。流出入の活性化というのはすごくいいなと思って、私も最近、持家率が高い富山県が全国的にお金持ちみたいな評価を得ているが、家があることに窮屈さを感じることもあったりする、流入出が活性化して、それでも富山に戻ってきたいと思うまちをつくるためにとか、子供たちに向けたメッセージみたいなところを出せるといい。

#### 【藤井委員】

- ・ 新しい横文字をまた入れた感を出さないようにというのは気をつけたいと思います。
- ・ SDGsウォッシュが散々批判されている後で、次はウェルビーイングウォッシュかという事にならないようにしたい。
- ・ 全ては子供たちのためということで、女性活躍も、教育支援も、あるいは先ほど安宅委員からありました美しい美観も、未来世代がここに住み続けられるためということで、分かりやすいメッセージを書くということは心がけたい。また、戦略の具体化も今後のワーキンググループでしっかりとやっていきたい。

#### 【中尾座長】

- ・ では、次に、高木委員に県民への広報についてのご提案をお願いしたい。

#### 【高木委員】

- ・ 中間取りまとめをどのように世の中に伝えていくのかということも大事なことで、この会議の場で提案したい。
- ・ この成長戦略会議は、すごくチャレンジングな会議体だと思う。委員もそうだし、すごく意欲的だと思って、内容もかなり先進性を取り入れていると思う。こういう会議は、取りまとめを首長とかトップに渡して、その様子を記者がカシャカシャと撮って、次の日新聞に載って終わりという感じのことが多く、何か作って終わりになって、執行もいつの間にかどうなったか分からなくなっているし、県民の関心も続かないものになりがちのところがよくないと思っている。発表後にどうやって活動として広がりをつくっていくかが極めて大事だと思って、簡単なものだが、提案させていただく。
- ・ いわゆる総合計画とか長期計画には、大きく3つの課題があると思っていて、1つは、役所の言葉でまとめられていて県民に伝わりづらい。藤井さんも、柔らかくまとめるのを意識されたと思うが、それでも多分難しい。僕の友達があれを読んでいる姿が全

然想像つかないので。

- ・ 2つ目は、どうしても作るまでがゴールになりがちなこと。それはマスコミの関心もそうで、だから、どうしても認知されない、浸透しないという、そこがちょっと弱い。でも、作ってから勝負だと思っているので、そこは必要だよねと。
- ・ 3つ目は、役所だけではできないということ。こういうビジョンはすごく大きいもので、どうやって実現するかというのは県庁の力だけでは足りなくて、もっと外の仲間とかを巻き込んでいく。ビジョンは県庁だけがやるものではなくて、外の人たちも巻き込む、共有するためにはあるはずなので、どうやって実現する仲間を増やしていくかという視点も大事なのかなと。
- ・ 今、あらゆる社会課題とか、産業構造が転換しなければみたいな話がいろいろ複雑になっている中で、県庁単体で成果を出すのは結構難しいという前提がある。なので、ビジョンの実現のためには、僕はまずは、この内容を県知事からメッセージとして発信して、ちゃんと県民の理解、参加をつくって、さらに外部を巻き込んでいくというプロセスを広報として取り入れる必要があると思っている。
- ・ 発表方針として、富山が世界に突出して価値としていく戦略の肝、戦略というのは本来シャープなものだが、どうしても県という単位ではいろいろ取り入れなきゃいけないものがある中で、しかもさらにそれまでの総合計画だったり、ある種、防衛的な戦略とかもある中で、やっぱり一番の肝の部分のビジョンとして県知事が語りかけるという流れをつくれなかなと思った。
- ・ 委員が取りまとめたものがこれから大事なポイントですと言っても、あまり説得力がない気がしていて、これを受けて県知事が自分の言葉で、これを富山のビジョンにするんだということをワンストーリーで県民または市町村に呼びかけていくということがすごく重要なので、そういうことをまず発表方針としてできないかなと。
- ・ 広報の方針としては、さっきも言ったように、ビジョン発表をゴールとしない。点ではなく線となる展開ができればと思っている、県知事から県内の理解浸透と仲間集めをして、さらに県外の人を巻き込んでいって、さらにその人たち、県内外を含めた関係構築と実践の共有と検証ができればと思っている。
- ・ 僕の具体的なイメージとしては、成長戦略会議の中間取りまとめを受けて知事が、これがビジョンだということを、役所言葉ではなくて平易な言葉で県民一人一人に呼びかけるメッセージを発表する。普通であれば発表して終わりだと思うが、盛り上げて

いきたいので、それを8月から1月、最終取りまとめが1月か2月と聞いているので、それまでの間に15市町村を回って、県知事が自ら、県民に向けて語りかけていく。何でもこういうビジョンにしたのかとか、こういうことをやっていくんだみたいな話をしながら、そこでさらに、アイデアや意見を聞いたり議論したりするプロセスを取っていく。富山ビジョンセッションと書いているが、市町村がある種、実際やっていくわけだから、そういうところに行くことがすごく重要なのかなと思っている。そして巻き込んでいくと。そこに参加した人たちが、こういう思いでビジョンってつくられているんだよ、こういうことなんだよという語り部になってくれるというプロセスも大事なのかなと思っている。

- ・ それを踏まえて、2022年の取りまとめを完成させるというタイミングで、ここのXXというのは、ビジョンに来るワード——さっきはウェルビーイングという言葉がありましたけれども——のカンファレンス富山みたいな、ある種、世の中に掲げるようなカンファレンスをつくって、そこにはもちろんここで集まってきた県内の人もだし、県外の関係者とか、またはその分野の世界のリーダーとかも呼んでビジョンとして発表して、その先進地域になっていくんだとか、それをどうやっていくのかということトークセッションで展開するカンファレンスができればと思っている。
- ・ それ自体がある種メディアとかみんなが知っていく場になるわけですけど、さらにそれを僕は毎年カンファレンスとして実施していけないかなと思っている。それはなぜかということ、定期的を開催することで繰り返し繰り返しビジョンの発信になるから。それによって聖地にしていけるということもあるし、その県内外の仲間が定期的集結してつながって、実践を共有したり検証したりする場として機能することによって、ある種、そういう関係人口を増やしていくこととか、コミュニティーになっていく、連帯をつくっていくこともあるし、ちゃんとそういう場があることで検証されていくこともあるのかなとされていて、それを積み上げていくプロセスをつくれなかなと思っている。
- ・ 例えば、渋谷は「ちがいを ちからに 変える街。」ということを言っていて、ダイバーシティをテーマにしたカンファレンスを毎年やっている、それと近い行動ですね。そうやって、テーマを掲げてカンファレンスを毎年やっていくことで仲間集めをしていって、そういうテーマのまちだという、そのビジョンのイメージをちゃんと県とひも付けていく。それで、中の人たちのマインドもちゃんと育っていくということをや

っていけないかなと。

- ・ 通常なら、発表のタイミングで一瞬新聞とかテレビに出るだけで終わるが、そうではなくて、仲間集めをどんどんしながらやっていくことで、ビジョンに基づく関係人口を増やしていくことができないかなと。
- ・ そうすることで、ある種ブラックボックス化しないというか、つくって終わりじゃなくて、継続的に発信しながら仲間を集めてやっていくことで、富山ビジョンにちゃんと向かっているとみんなが共有できるような、そういう線となる広報ができれば。
- ・ 方針として考えたので共有させていただいた。明確なビジョンを軸に富山というコミュニティを世界中に広げていく。富山という、県というよりは、そこが掲げるビジョンを軸に、そこに関心がある人たちが世界中に広がっていくことが関係人口ということだと思うので、それをつくっていく第一歩目になるとすごく面白い。さっきの人口流出や新しい産業を作っていくという課題を捉えることにもなると思うし、ビジョンの執行というものにもつながっていくと思う。

#### 【安宅委員】

- ・ 今の高木さんのお話、とてもすばらしいと思う。ビジョン発表をゴールにしない、大賛成というか当然そうであるべきし、あらゆるところでそういうのが多い。政界レベルでも多いが、ここは当然、ゴール、戦略が変わるんだったら組織側も変わらなきゃいけないし、運動論の立ち上げであるということがやっぱり大事だと思いましたということで全く賛同。これが1個目。
- ・ 2つ目は、先ほどウェルビーイングは片仮名過ぎるんじゃないかという、これは僕も引っかかかっていて、残すに値する空間をつくるとか、もうちょっと何か、完全にこなれた和語がいいんじゃないかと思う。
- ・ 3つ目は、先ほどの高木さんのお話で、ここからいっぱい行脚が始まるという話なんですけど、それは正しいと思う。やっぱり県知事と基礎自治体の首長がトップ・トゥー・トップで話していただくしかないの、僕はバディとなる基礎自治体というか地域をとにかく募集したほうがいいと思う。日本国の法制では、基礎自治体しかできないことがあまりにも多い。先ほどの高岡市でもいいし、僕はたまたま高岡生まれなのでびっくりしたんですけど。どこでもいいです。育った富山市でもいいし、黒部でもいいし、富山っていいところがいっぱいあるので、石動とか。僕、石動とか面白くていいと思う、県境で。面白い地域があまりにも多いので、とにかくどこかやばいことやり

ましようよという仲間をつくらないと、呉西と呉東、どちらからも1個ずつぐらいいたほうがめちゃくちゃやりやすいと思うし、それが富山市じゃないことのほうがむしろ望ましい気がする。つまり、真ん中の人たちが結局、真ん中だけでやっているんだろうと見えるのがあまり美しくない。富山市も入っているのは全然悪くない。今の富山市は昔と違って、ものすごい巨大なので、八尾とかも全部くつついちゃっているので全然違いますけど、とはいうものの、真ん中だけでやっているように見えないようにするのは結構重要。

#### 【高木委員】

- ・ 本当にそのとおりだと思っていて、僕は全部の市町村を回るべきだと思うし、ビジョンはやっぱり大きい世界観なので、その中で各基礎自治体が得意になってやれることは違うと思うので、そういうものを各市町村のトップとか、企業の方とか、そういう人たちと連携してやっていく。前田委員であれば立山町だと思いますけど、立山町に行ったときに前田委員が、ヘルジアン・ウッドでこういうことをやっていこうとやっていくと、それが形になっていくと思いますし、そうやって輪を広げていくものだと思うので、そういう動きをつくっていける、運動論をつくっていけるといいなと思う。
- ・ また、一部の人たちとか外の人たち、メディアとかがいいねと言っているだけではダメで、結局、県民一人一人が乗れることがものすごく重要で、ビジョンへの熱狂は基本的に中からしか外に広がっていかないものだと僕は思っている。そういう意味で、確かに僕もウェルビーイングという言葉でいけるのか、自分の両親が、それで乗れるのかという結構難しいかなと思うので、そこは本当に最後、知事に一番胸に響く言葉を見つけていただいて、それをキーワードにしていけるといいと思う。

#### 【中尾座長】

- ・ この広報案については、具体的には県で進めていただくことになろうかと思う。
- ・ 私も途中からずっとこの会議で感じているが、一般の県民の皆さんに広報していく時に、片仮名で注釈をつけても恥ずかしくないんじゃないか。下のほうに。括弧でも。ちょっと注釈をつけないと、当然のように言われている言葉でも分かりにくいことがあるので、とにかく分かりやすい表現、分かりやすい報告にしていければと。

#### 【齋藤委員】

- ・ その中に僕がぜひ入れてほしいのは、市町村の壁を打ち破ること。新田知事が当選されたときにワンチームと言いましたよね。協働というか、今、私は富山大学の大学院

を大改革するということで、文部科学省との最終調整中であるが、今まで学部の上に修士課程が乗っていて、更にその上に博士課程が乗っていて、学部の壁があった。富山大学は3つの大学が1つになったが、学部の壁で全く改革が進まなかった。それで、全部の学部を回って説得した。時代の動きが速くなって、融合領域が大きくなってきたので、もう学部だけでは駄目なので、文理融合の大学院構想もつくり、いろんな形でやるということで、ようやく文部科学省も了承していただく方向で、来年4月から開設する予定だが、それと同じだと思う。市町村の壁がきつ過ぎると、我が町、我が市だけがよくなればいいと、それはやっぱりまずくて、全体で富山県をよくしましようという形の連帯感が必要だと思うので、ぜひとも全市町村を回っていただくのと、あとは連携してやりましようという形のメッセージが必要かなと思う。

**【高木委員】**

- ・ カンファレンスはそういう場になるといいと思っていて、各市町村のトップや、企業の経営者が立場を超えて協働したり、同じテーマを掘ったりする場になるといいなど。それはある意味、県内と県外も同じで、県内の人だけ、外の人だけというのはダメ 駄目で、そういうものを特化していくためにビジョンがあると思うし、そういう場の設計をして、知事がどんどんその壁を壊して仲間を巻き込んでいくことで熱が生まれていくと思うので、こういう広報をつくっていけると新しいのかなと思う。

**【中尾座長】**

- ・ カンファレンスというのはどういうイメージで言っておられますか。

**【高木委員】**

- ・ ビジョンで掲げる言葉を立てた「なんとかカンファレンス富山」みたいな形で、そのテーマにまつわる事業を展開しているような会社だったり、そういうテーマをされている教授とか学会の方だったり、またはそういうテーマで活動されているNPOの方とか、そういう人たちを巻き込んで、そのビジョンをどうやって実現していくかをいろんな切り口で議論したり、ワークショップで市民とか巻き込むようなことを、数日間かけて、お祭りみたいな場を年に1回つくれたらいいなど。
- ・ そのときに、世界中と言ったらあれかもしれないですけど、さっきのオリンピックみたいなもので、いろんなところから呼んできて、その分野の人たちがみんな集まっているみたいな。富山ってその先進地域なんだということを印象づけられるようなカンファレンスをつくっていけると、すごく面白いと思っている。

**【中尾座長】**

- ・ 今日皆様は大変貴重なご意見をいただいた。今日のご意見を踏まえて、今月中をめどに最終の中間報告をまとめることになるが、詳細、追加修正につきましては座長にご一任いただきたい。

(異議なし)

**【新田知事】**

- ・ 三牧さんから県の総合計画との立てつけについてご説明する。

**【三牧知事政策局長】**

- ・ 先ほど、この戦略の位置づけ、外枠をしっかりと整理する必要があるとのご指摘があった。県としては、総合計画を策定しており、その政策は引き続きしっかり進めていく。こうしたことも今後しっかり発信していかないといけないと思っている。
- ・ 成長戦略会議は、新田さんのマニフェストにある会議であり、戦略はそれを具体化するものとして、社会情勢が変わる中で、富山県としてスピード感を持って重点的にやっていく分野という認識でいる。
- ・ 今日の議論では、目線を上げて世界を目指す。世界水準の富山県を目指すための戦略という位置づけを加えていくのかと思っている。そういう意味で、総合計画のように成長戦略でも、またこれは総花的になって、今日議論があった、絞るとカリソースの再配分とか、そういう問題に支障が出ないようにしっかりと検討していきたいし、先ほどの位置づけの説明も新田さんから県民に向けてしっかり発信していければと思っている。

**【新田知事】**

- ・ 藤井さん、中間報告、大変なご労作だと思う。そして、委員の皆様からは、めり張りをつける、エッジを効かせる、あるいは登るべき山を変える、そして世界水準を目指す、そのような視点からの多くの意見もいただいた。これをまた藤井さんに受けていただき、座長一任ということで、中間報告を最終的にまとめていただければ。
- ・ これを受けて、8月上旬をめどに、県としての成長戦略の取りまとめを行う。ワーキンググループの話も出たが、それで具体的に進めていくということになる。
- ・ 一方で、最後に高木さんから提言いただいた広報戦略も着実に進めていかなければならないし、特に15市町村のビジョンセッション（仮称）については早速始めたい。私の言葉で、これを県民の皆さん、首長の皆さんにしっかりと伝えていく。そして、単

につくって終わりのビジョンでは決してなく、実際に執行できる、そのためにも県内外に仲間を増やしていく、そのようなことを早速始めていく。そのように今後進めていきたい。